

1.3 ニュートンの運動方程式はハミルトン方程式に書き換えることができる。

1.4 中心力場の運動では角運動量は保存される。

1.5 ポテンシャルで定まる力を受ける粒子の運動は、道の空間上の変分問題の極値で表わされる。

1.6 ハミルトン方程式の解は、相空間上の道の集合上のハミルトン汎関数の極値で与えられる。

演習問題

1.1 $f(x, y) : \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$, $0 < \theta < \pi/2$ とし、

$$\forall (x, y) = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \text{grad} f \quad \text{のとき}$$

\forall には定常解以外の周期解はない。

[証明] $x(t) = (x(t), y(t))$ を周期解とする。

$$\begin{aligned} \frac{df(x)}{dt} &= \frac{\partial f}{\partial x} \frac{dx}{dt} + \frac{\partial f}{\partial y} \frac{dy}{dt} \\ &= \frac{\partial f}{\partial x} \left(\frac{\partial f}{\partial x} \cos \theta - \frac{\partial f}{\partial y} \sin \theta \right) + \frac{\partial f}{\partial y} \left(\frac{\partial f}{\partial x} \sin \theta + \frac{\partial f}{\partial y} \cos \theta \right) \\ &= \left(\frac{\partial f}{\partial x} \right)^2 \cos \theta + \left(\frac{\partial f}{\partial y} \right)^2 \sin \theta \geq 0 \quad (\text{by } 0 < \theta < \pi/2) \end{aligned}$$

$\cos \theta$ と $\sin \theta$ が同時に 0 になることはないから、